



# 地磁気世界資料解析センター News

## 1. 新着地磁気データ

前回ニュース (2017年11月30日発行、No.166) 以降入手、または、当センターで入力したデータのうち、オンラインデータ以外の主なものは以下のとおりです。

オンライン利用データの詳細は (<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/catmap/index-j.html>) を、観測所名の省略記号等については、観測所カタログ (<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/catmap/obs-j.html>) をご参照ください。

また、先週の最新オンライン利用可データは、(<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/wdc/onnew/onnew-j.html>) で御覧になれ、ほぼ2ヶ月前までさかのぼることもできます。

### Newly Arrived Data

- (1) Annual Reports and etc.(off-Line) : NGK (Sep.-Dec., 2017)
- (2) Kp index : (<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/kp/index-j.html>) : (Nov.-Dec., 2017)

## 2. ASY/SYM 指数

2017年11-12月のASY/SYM指数を算出し、ホームページに載せました。

<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/aeasy/index-j.html>

## 3. 沖縄訪問記

1月22日から1月24日の間、地磁気世界資料解析センターの家森俊彦教授、及び筆者を含めた学生2名で、NICT 沖縄電磁波技術センターに2011年に設置した磁力計の回収を行った。この磁力計は台風によって下層大気が擾乱され、電離圏に電流が流れるという仮説を検証するために設置された。さて、設置された磁力計は安定させるために地中に埋められているのだが、雨が降っていると回収作業ができない。初日は天候が悪く、最悪作業が全くできないことも考えられたが、幸運なことに我々が沖縄に到着した頃には雨が止んでおり、作業を開始することができた。地面を掘り返して磁力計やコードなどを回収、洗浄を行い、半日程度で作業は終了した。



<掘りかえす前>



<地面を掘る筆者>



<掘り返された磁力計>

磁力計回収の翌日には、この技術センターで用いられている新型のフェーズドアレイレーダー(次頁写真)についての説明をして頂いた。従来のパラボラレーダーは、上下方向の回転を機械制御で行わなければならない、全天を観測するのに凡そ5分程度かかる。一方、フェーズドアレイ気象レーダーは、上下方向の回転を機械式ではなく、電子式で行うため全天を観測するのに30秒程度で済む。これによってゲリラ豪雨をもたらす積乱雲や竜巻の観測が可能になる。このセンターでは、このレーダーを用いて観測した雨量データをリアルタイムで公開しており、HP上にて確認することができる。



<フェーズドアレイレーダー>



<集合写真: 左より天野玲修士課程 2 回生、筆者、家森俊彦教授、雨谷純沖縄電磁波技術センター長、杉谷茂夫さん>

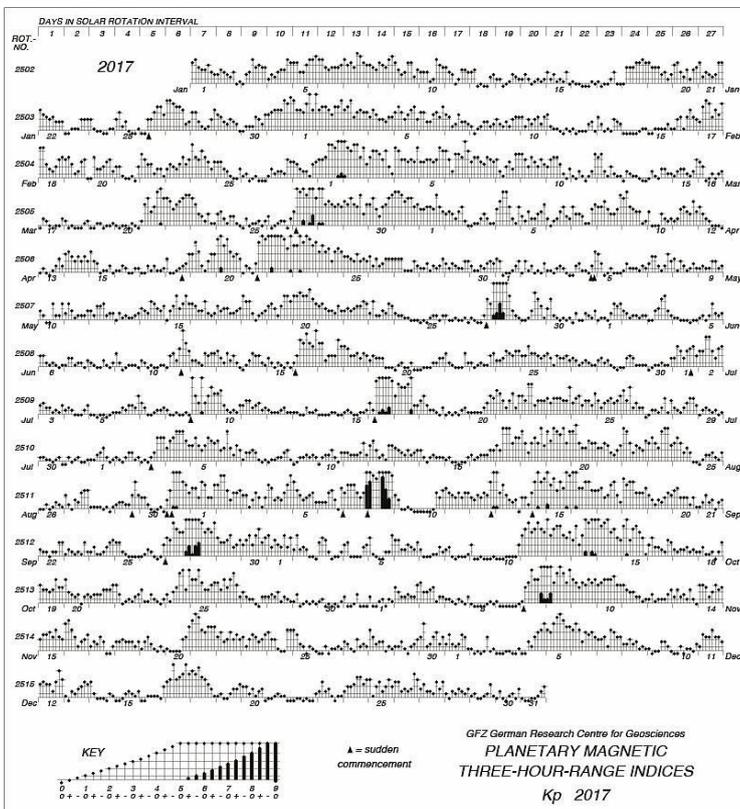


<レーダーの説明を受ける家森教授>

今回筆者にとって初めての観測機器回収だったが、普段自分が用いている観測データがどのように収集されているかを知る貴重な体験をさせていただいた。このような機会を設けてくださった家森教授、並びにセンターで世話をしてくださった杉谷さん、雨谷センター長や事務の方々には感謝の意を表する。

(理学部 4 回生 : 小谷 翼)

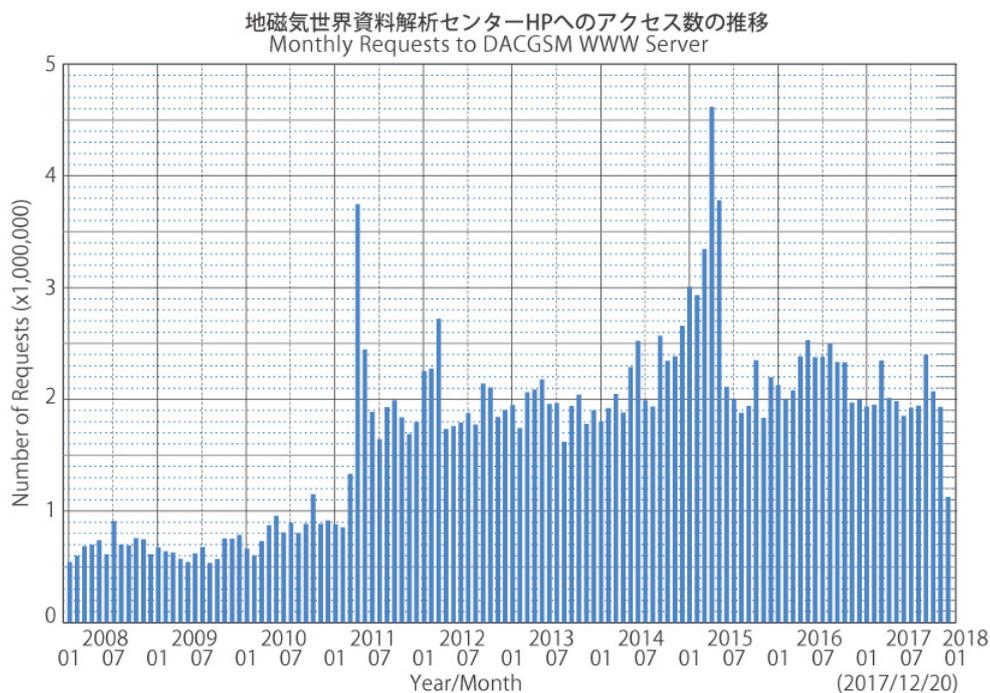
#### 4. 2017 年の Kp 指数図表



2017 年の Kp 指数図表 (Bartels musical diagram) を左に示します。

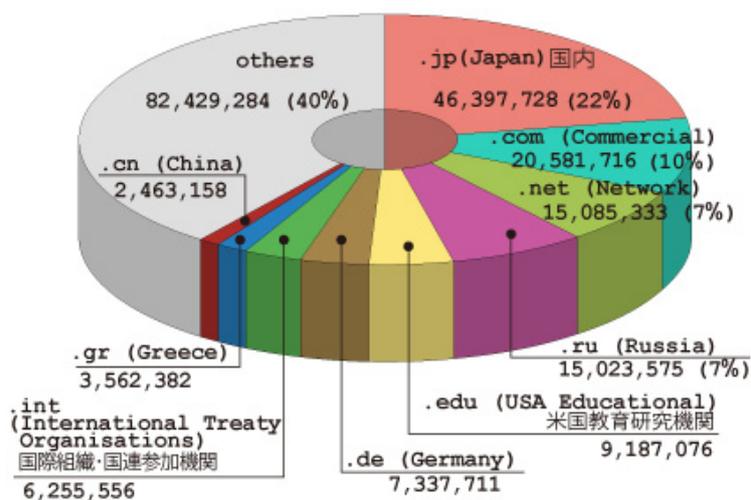
Kp 指数の数値 (1932 年以降)、及び 1990 年以降の Kp 指数図表は <http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/kp/index-j.html> からご利用になれます。最新の Kp 指数は原則として翌月半ばには利用可能となります。

## 5. 当センターホームページへのアクセス統計



<図1：最近10年間のアクセス数の推移>

地磁気世界資料解析センターHPへの国別アクセス数  
Number of Access Based on Country 2008/01-2017/12



<図2：アクセス元の国別統計>

---

## 6. 第5回オープンサイエンスデータ推進ワークショップが開催されます。

題目：第5回オープンサイエンスデータ推進ワークショップ

— データマネジメントの実施および教育の現状報告を中心に —

日時：2018年3月1日(木) 13:30 - 17:30 (懇親会：18:00 - 20:00)

3月2日(金) 10:00 - 16:00

場所：京都大学大学院理学研究科セミナーハウス

主催：京都大学理学研究科附属地磁気世界資料解析センター (ICSU-World Data System メンバー)  
京都大学アカデミックデータ・イノベーションユニット

共催：ICSU-World Data System (国際科学会議-世界科学データシステム)  
京都大学学術情報メディアセンター  
京都大学情報環境機構  
京都大学宇宙総合学研究ユニット  
京都大学学際融合教育研究推進センター

参加申込期限：2月5日

開催趣旨：

科学データを公開することのメリットは、多くの場合、デメリットに比べ非常に大きいことから、「オープンサイエンス」、「オープンデータ」推進の重要性が各方面で認識されつつあり、多種大量のデータ、分野をまたがる分散したデータベースを統合的に取り扱うためのシステム開発や、データベースに識別子(具体的には DOI: Digital Object Identifier)を付与し、論文でデータ引用を行う動きが世界的に加速しています。また、予算獲得のための研究計画を提出する際には、取得したデータのデータベース化と公開、保存の一連の過程を記述する「データマネジメントプラン」も含めることが欧米では必須化されつつあり、我が国においても昨年度から JST の一部の募集等で要求されています。これらとも関連して、データリポジトリの質を保証するための国際的認証の仕組みも整備されつつあります。しかし、このような動きに対応するためには多くの問題・障壁も存在します。「オープンサイエンス」、「オープンデータ」についての国内外の現状の把握と問題点の認識・議論を目的として、平成27年9月と12月および平成28年9月と平成29年2月との4度にわたり京都大学で開催いたしましたワークショップに引き続き、平成30年3月1日-2日の両日、第5回のワークショップを開催させていただくことになりました。今回は、各方面におけるデータマネジメントの現状に焦点をあて、国内外の関連活動の出来るだけ具体的な取り組み例をご紹介いただき、問題点などを議論していただく、また、このワークショップを契機の一つとして、京都大学に設置されました「京都大学アカデミックデータ・イノベーションユニット」の紹介を行い、今後の活動について、学内外からのご意見もいただきたいと考えています。もちろん、会議の趣旨に密接に関係していることでしたら、これ以外の幅広いトピックスも歓迎いたします。

詳細や申し込み方法、過去4回のプログラムと講演資料等につきましては、以下のページをご参照願います。

<http://wdc2.kugi.kyoto-u.ac.jp/openscws/index.html>